

# 盆

## 1. 大和の盆行事

のうはんき  
農繁期を避けるなどの理由で、月遅れの8月13、14、15日、あるいは一時的に8月1、2、3日に盆行事を行っていました。現在も8月に行うところが多いようです。13、14、15日に行う場合は、7日をナヌカビといい墓掃除をし、赤飯を炊くこともありました。地域や寺によって異なりますが、5、6、7日ごろに施餓鬼せがきを行い、新盆の家ではそれよりも前に親戚から届けられたカケブクロさらし（晒の袋に米を2升4合入れたもの）と扇子、草履、お金を麻糸で縛って寺へ持って行き、寺でとうば塔婆を書いてお経をあげてもらいました。

## 2. 盆棚ぼん だな

13日の朝のうちに、先祖を迎えるための盆棚〔オタナ〕を、オクの床の間の前、またはザシキにオクとの境を背にして作りました。四斗樽たる ようさんや養蚕に使うエビラを置き、その上に戸板を載せ、莫座ござを敷いて台にしました。台の両脇あるいは四隅に竹を立て、そこに縄を張り渡し、ホオズキ、水稲すいとの穂、陸稲りくとうの穂、小豆やサトイモの葉、粟あわの穂などを挟んで下げました。盆棚の背後には、宗旨によって十三仏やお題目の掛軸をかけ、仏壇から位牌を出して並べますが、お留守番といって位牌を1つだけ仏壇に残すこともありました。盆棚は16日の朝に片付け、供物などは川に流しました。

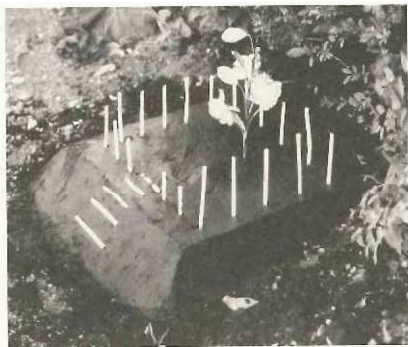


盆棚（上和田）

### 3. 砂盛り

13日の午後に迎え火を焚きます。迎え火を焚く場所は屋敷の入口などで、そこに30～40センチ四方で高さ10センチくらいの台形の砂盛りを1つ作り、長さ30センチくらいのおがらお がらを先祖の杖に見立てて数本立てます。麦藁わらを燃して迎え火を焚くときに砂盛りの上にナスとキュウリの牛馬を置き、線香を立てます。先祖が迎え火を目印にして馬に乗って帰ってくるとされ、迎え火が終わると馬を盆棚に持って行くところもありました。15日の日が暮れてから、あるいは16日の朝に迎え火と同じ要領で送り火を焚きます。砂盛りは盆の間そのままにしておき、自然に崩れるに任せました。

市域の砂盛りの例



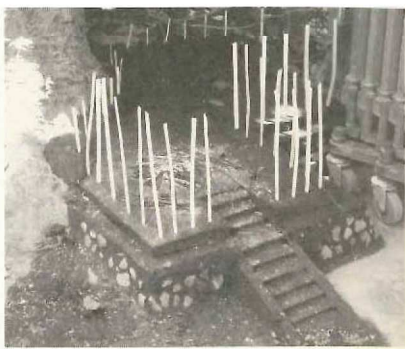
下和田



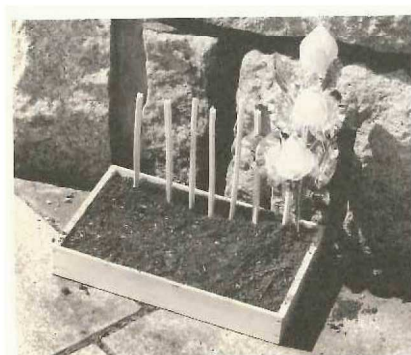
深見坊之窪



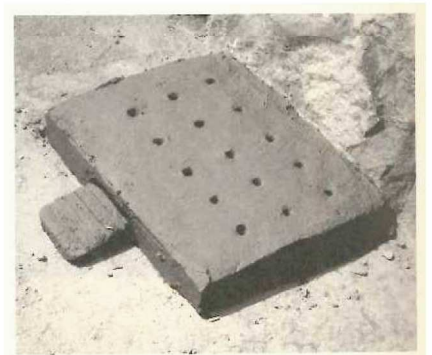
深見宮下



福田



深見宮下



深見島津